

高田三郎作品による

リヒトクライス第29回演奏会



Program

混声合唱のための **典礼聖歌**

混声合唱とピアノのための **ヨハネによる福音**

男声合唱組曲 **海**

女声合唱組曲 **マリアの歌**

混声合唱組曲 **水のいのち**

指揮 **鈴木茂明**

小川義宏 太田雄一郎

オルガン **木島美紗子**

ピアノ **滝田祐子 池田悦子
浅井桜子**

合唱 **混声合唱団コーロ・ソフィア
女声合唱団コーロ・コスモス
筑波大学混声合唱団
大井しらゆりコーラス
高田三郎をうたう会(公募)**



2025年 **2月8日(土)** 東京オペラシティコンサートホール
13:30開場 / 14:00開演 **タケミツメモリアル**

全席指定 S席3000円 A席2500円 B席1500円

チケット取扱い チケットぴあ(Pコード 286505) / 東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999

お問い合わせ lichtkreis@p02.itscom.net (リヒトクライス実行委員会) リヒトクライスHP <https://lichtkreis.amebaownd.com/>

後援: 東京都合唱連盟 JCD 日本合唱指揮者協会

リヒトクライス第 回演奏会

高田三郎
(作曲家 1913-2000)



リヒトクライス

混声合唱団コーロ・ソフィア／女声合唱団コーロ・コスモス
／大井しらゆりコーラス／筑波大学混声合唱団

1992年、鈴木茂明の指揮する合唱団が高田三郎作品の精神と芸術性に共鳴して結成。以来、2000年に帰天されるまで毎年作曲家自身の指導を受け、高田作品の個展としての演奏会を開催し、29回目を迎える。「リヒト」はドイツ語で「光」を、「クライス」は同じく「輪」を意味する。プログラムは混声・女声・男声合唱曲、典礼聖歌、独唱曲、室内楽曲、オルガン曲、ピアノ曲など多岐にわたり、高田作品の真髄を味わえるとの評価は高い。

リヒトクライスの演奏を何回か聞いて、わたしはそのたびに、それまで知らなかった何人ものすぐれた現代詩人の詩を知る幸いをえた。高田先生は、自分はよい詩を見つけるのが上手だと仰っていた。しかし、高田先生の曲がなければ、わたしはこれらの詩を味わう術を知らなかったろう。高田作曲はこれらの詩のいわば本質をつかみ取り、それを音楽として見事に造形している。詩は音楽である。そして、音楽は詩なのだ。それが人間の心をその奥底において形作る。今日、教育の荒廃が世に嘆かれている。しかし、ギリシャの哲人プラトン、アリストテレスが教えるように、教育の基礎はただしい音楽教育にある。そしてその中心は歌曲にある。真底から唱和しうる歌謡を共有することなしに人の心の協和は生まれない。そして、心の協和がないところには真実の国家共同体もない。

高田先生はある時言われた。「作曲家は作曲する。しかし、それは演奏されなければ共有のものとはならない。」あたり前のことだが大切なことだ。鈴木茂明氏の固い信念に導かれてリヒトクライスが高田作品を中心にした演奏会を毎年開いていることをわたしはたいへん貴重なことだと思う。わたしたちの国でこの頃次々と起こる暗い事件に心を痛めない人はいないだろう。この国はいったいどうなってしまったのだろう。わたしは「水のいのち」という曲が大好きである。低きにつこうとする水、そこそこの轍にたまった水たまりの一つ一つ、それでも、そこには空の青さが湛えられている。それはわたしたちの生命そのままだ。高田作曲は高野氏の詩のひだの一つ一つに隅々まで分け入り、これを完璧な音楽として歌いあげている。「のぼれ、のぼれ、のぼりゆけ。…水のこがれ、水のいのちよ…」それはこの暗闇に住むわたしたちに希望を与えてくれる。わたしは聞くたびに涙をこらええない。高田先生はまた言われた。「作品が演奏されても、聞く人がいなければ、音は空しく響くだけだ。」まことにそのとおりである。音楽は作曲家が作曲し、演奏家が演奏し、聴衆が聞く時、はじめて音楽として現勢化する。聴衆はその場その場で演奏に声を合わせ、声にならない声と一緒に歌っているのだ。その時、会堂は一つのものとなり、会堂全体が音楽となる。「水のいのち」が初めて演奏されてから(1964年)すでに長い年月がたっている。(中略)しかし、国の内外のどこを見ても、明るい未来を期待させるものが少ないのが現状で